

いきもの作家

菅原尚己



ご紹介資料

いきもの作家・菅原尚己について



赤膚焼を、親しみやすく愛らしい
「生き物」をあしらったデザインで。

私自身の作品は「生き物を陶器に付けたり」「器に生き物の体の一部を忍ばせたり」
必ず作品には生き物を表現をしています。

その中でも作品制作に力を入れているのが、陶芸ならではの「土が持つ暖かみや土味」を
生き物たちに与えることで、どこか温かみがあって生き物達が生き生きしている。
そんな作品作りを心がけて、制作しております。





赤膚焼について
数百年続く伝統工芸

奈良の赤膚焼は 1583 年、豊臣秀吉の弟で大和郡山城主の秀長が、愛知県常滑の陶工を招き、赤膚山で茶器を焼かせたのが始まりとされています。

その後、江戸時代末期に奥田木白が赤膚焼を制作。

この奥田木白が「赤膚焼を世に広めた人物」であり、現在の赤膚焼の基盤を作った、原点の作品を数多く制作しております。

また奥田木白の作品の中には、「南瓜に蝉を付けた花瓶」や、

奈良の一刀彫を模した「海老や鹿の香合」などがあり赤膚焼と生き物はとても深い繋がりが感じられます。

どんなときに赤膚焼？

飲食店の器に

贈り物・記念品に

オフィスの飾りに

オリジナル焼き物

赤膚焼はお茶席の道具として長年重宝されてきました。もちろん普段使いの器としても多くの方に愛されています。
それ以外にも多くのシーンに赤膚焼をあわせていただければ嬉しいです。

制作・活用事例 1

土地のイメージをのせた贈り物

奈良市からのご依頼で、オーストラリア・キャンベラ市長への寄贈品に
コアラの赤膚焼を制作しました。
親子コアラの造形と赤膚焼の白をかけあわせた作品にしあがりました。

ご依頼元：奈良市
事例：寄贈品の制作



制作・活用事例 2

一味違った焼き物をイベントに

クリスマスマーケットへ出品。料理やお酒を楽しみながら、
器やオブジェをみてもらうことで、クリスマスの思い出づくりに華を添えました。

ご依頼元：ザ・ヒルトップテラス奈良

事例：イベントへ出品



制作・活用事例 3

ショップに ぬくもりある赤膚焼を

ならまちの店舗を中心に、ショップ様にて菅原尚己の焼き物を取り扱っていただいています。



-きてみてなら SHOP



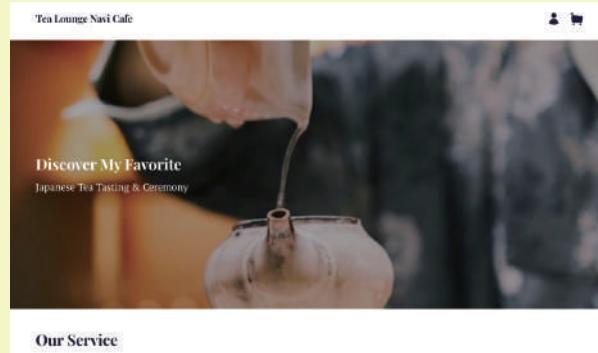
-なら歴史芸術文化村



-なら工藝館



-工藝舎



-柿の葉茶専門店 SOUSUKE by ほうせき箱



-Tea Lounge Navi cafe

略歴・連絡先



菅原尚己 / Sugahara Naoki

奈良の伝統工芸である赤膚焼（アカハダヤキ）の若手作家。
高校より陶芸を学び、地元・奈良の赤膚焼窯元である大塩昭山先生のもとに師事。

その後奈良に自身の窯を取得し独立。
展示会やイベントに積極的に出展。精力的に活動中。

京都府立陶工高等専門校 卒業
奈良にて赤膚焼窯元 大塩昭山 師事
現在奈良市にて独立

市展なら 受賞
市展なら招待作家
第54回 日本伝統工芸近畿展 入選

お問い合わせ

ご依頼などのご相談は下記よりお気軽に
下記の連絡先かホームページのお問い合わせフォームからお願い致します。

MAIL : akahada.sugahara.yaki@gmail.com
TEL : 080-3642-4091